

伊能忠敬研究会は、平成8年の発足以来、会誌『伊能忠敬研究』の発行、研究会の開催、伊能図の展示、見学会や研修旅行の実施などを通して伊能忠敬と伊能図についての調査・研究、啓発・顕彰に取り組んで参りました。

この間、アメリカ議会図書館において伊能大図を大量に発見するなど、伊能図について新たな知見を加え、伊能図の全貌を知ることができました。

また、伊能測量200年を記念し、約2年がかりで日本全国を一周した「伊能ウオーク」、フロア上に展示された原寸大の伊能大図の上を歩いてその精密さ、美しさを実感していただく「伊能図フロア展」、映画『伊能忠敬—子午線の夢』の上映、忠敬没後200年を記念し、開催した「伊能測量協力者顕彰会」や記念誌『伊能忠敬—日本列島を測る』の発行など、さまざまな事業を主催、共催、後援してきました。本会は今後もさらなる歩みを進めて参ります。



伊能忠敬測地遺功表(東京・港区 芝公園)

本会は伊能忠敬に関心をお持ちの方はどなたでも入会できます。

次のような事業を行っています。

- ①会報『伊能忠敬研究』の発行 研究成果・会員活動情報など 原則として年3回発行
- ②例会・見学会・講演会の開催
- ③伊能忠敬関係イベントの主催・共催・後援等
- ④その他付帯する事業

■入会方法等

入会ご希望の方は、住所、氏名、電話番号、メールアドレスをお書き添えの上、下記振替口座に年会費5,000円をお送りください。

会計年度は4月から翌年3月までですが、年度途中からご入会の場合は、その年度発行の会報のバックナンバーをお送りします。

郵便振替口座 00150-6-0728610

■事務局所在地

〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-9-6
(一財)日本地図センター2F 伊能忠敬研究会
※ご連絡はなるべくメールをお願いします。

メールアドレス mail@inoh-ken.org

ホームページ <http://www.inoh-ken.org>



伊能忠敬銅像(東京・江東区富岡 富岡八幡宮境内)

伊能忠敬研究会は伊能忠敬とその業績について関心を持つ方の集まりです。

伊能忠敬の人物像、関わりのある人々、実り豊かな人生、努力の成果である「伊能図」など、伊能忠敬に関心のある方の入会を歓迎します。

伊能忠敬の人物像

伊能忠敬は、延享2（1745）年に上総国山辺郡小関村（現：千葉県・九十九里浜のほぼ中央）の網元で名主もつとめる小関家の次男として生まれました。幼名を三治郎と言い、上に兄と姉がいる末っ子でした。6歳の時に母が亡くなり、養子だった父は当時の慣習に従い、実家の神保家に戻りました。三治郎は10歳まで小関家で養育され、その後は父のもとで暮らしました。

17歳の時、佐原村の豪商伊能家の跡取り娘三子の婿となり、49歳で隠居するまで家業に精を出して家産を増やしました。また名主として佐原村の村政に尽して村民の崇敬を受け、また領主からも大いに信頼されたと伝えられています。



伊能忠敬肖像画（国宝 伊能忠敬記念館蔵）

隠居後、江戸に出て幕府天文方の高橋至時の門人となり、本格的に天文・暦学を学びました。

地球の大きさを知りたいという動機から蝦夷地の測量を幕府に願い出て許され、55歳から71歳までの足掛け17年、10次に及ぶ全国測量を成し遂げ、日本で最初の実測による科学的地図である『大日本沿海輿地全図』を作り上げました。しかし忠敬は、地図の完成を見ることなく、文政元（1818）年、八丁堀亀島町（現・中央区日本橋茅場町）の地図御用所で亡くなりました。地図が完成したのは、その3年後の文政4（1821）年のことでした。



伊能忠敬旧宅（国指定史跡・千葉県香取市佐原）

伊能図

伊能忠敬が幕府に提出した『大日本沿海輿地全図』は、大図（3万6000分の1）214枚、中図（21万6000分の1）8枚、小図（43万2000分の1）3枚から構成されていましたが、明治6（1873）年の皇居の火事ですべて焼失したとされます。これに代えて伊能家から提出された控図も東京大学に保管中に関東大震災により灰燼に帰してしまいました。しかし、各地の大名に贈られた地図や明治時代に模写された地図などが各所に残されており、今日でもその全貌を窺い知ることができます。



伊能大図第100号（国立国会図書館蔵）

伊能中図第五（NISSHA 株式会社蔵）